

豊田市で有機栽培のてん茶経営 ～高い技術で時代に合致した茶生産を実践～

豊田市 藪押博茂さん
茶

【平成30年1月26日掲載】

豊田市豊栄町を中心とした地域で茶を栽培し、主に「てん茶」（茶を被覆して栽培し、収穫後揉まずに乾かした茶葉。抹茶のもとになる。）を製造*する藪押博茂さんをご紹介します。（*乾燥などの一次加工を指す。）

茶を理論的に学んで就農

藪押さんは、豊田市の南部にある豊栄町で「せん茶」（茶を被覆せずに栽培し、揉んで乾かした茶葉）を栽培・製造する農家に生まれました。中学1年生のときに早くも家業を継ぐことを決意し、安城農林高校を卒業後、静岡県島田市にある農林水産省茶業試験場（現（国研）果樹茶業研究部門）の養成研修課に進学しました。茶業試験場では2年間「せん茶」を専攻し、茶の栽培や加工に関する知識はもちろん、生理生態まで深く学び、修了後の昭和57年、20歳で就農しました。藪押さんは、理論的に茶を学んだため、経験に則って生産していた父の勉さんとよく衝突しましたが、就農数年後には茶園の管理や販売先との交渉などを任されました。



藪押博茂さん

「てん茶」用茶葉の栽培体系の確立

藪押さんの就農以前から、勉さんは単価の高い「てん茶」用の茶栽培を開始し、昭和54年に近隣の茶農家とともに製茶工場を建てたことを機に「てん茶」主体経営に移行しました。「てん茶」用の茶栽培は「せん茶」とは異なる技術が必要であるため、就農した藪押さんが新しい栽培体系を確立しました。

「てん茶」用茶葉の栽培ポイントは、被覆と収穫の適期を逸しないことです。このため藪押さんは、標高の異なる3地区での栽培、早晩性の異なる品種の導入、各品種の栽培面積の調整に取り組みました。例えば、一つの品種を豊栄町（標高50m）と下山地区（標高650m）で栽培すると、下山地区では、収穫物となる新芽が出る時期を約3週間遅らせることができ、新芽が出てすぐ実施する被覆作業と約1か月後の収穫作業が両地区で重なりません。同様に、標高と品種を組み合わせることで、新芽が出る時期をずらし、栽培面積を適正にすることで、5.1haの茶園のすべてで適期に作業ができる栽培体系を確立しました。



標高の異なる3地区で栽培

有機栽培の「てん茶」に挑戦

平成に入ってから、販売先からの要望を受けて有機栽培に取り組むようになりました。「てん茶」用の茶栽培は「せん茶」に比べ、新芽が出始めてから収穫するまでの期間が長く、虫の被害を受けやすいため、有機栽培は難しいとされていました。藪押さんは、冷涼で害虫が越冬できない下山地区のは場で試行錯誤し、「てん茶用の茶の有機栽培技術」を確立しました。平成9年には有機JAS認定を取得し、需要の高まりとともに有機栽培の面積を増やした現在、栽培面積の6割にあたる3haで有機栽培に取り組んでいます。

有機栽培は、除草剤も使えないため草刈りに人手がかかり、肥料代は通常の1.5倍、新しい肥料を使う際は必ず認証機関に確認するなど、手間も費用もかかります。しかし、特徴のある商品が求められる時代であることから、今後も続けていきたいと考えています。

品評会で農林水産大臣賞を受賞

平成29年8月、地元豊田市において15年ぶりとなる関西茶業品評会が開催されました。藪押さんが所属する豊田市茶業組合では、技術を高める機会として農林水産大臣賞を目標とし、品評会への出品に力を入れました。品評会に向けて茶の栽培に細心の注意を払うことはもちろん、加工にも余念がなく、組合員あげて丹精した茶を出品しました。

その結果、藪押さんは、「かぶせ茶」（被覆して栽培し、揉んで乾かした茶葉）の部において農林水産大臣賞を受賞する栄誉に輝きました。被覆して栽培する「てん茶」と、揉んで乾かす「せん茶」の両方の高い技術を持っていたからこそその受賞となりました。

そのほか品評会では、豊田市が、優れたお茶を多数出品した市町村に贈られる産地賞を受賞するなど、地域の高い技術が認められました。



受賞後、愛知県知事と記念撮影する様子（右から2番目が藪押さん）

今後の「てん茶」経営を見据えた土台作り

藪押家では、7年前に息子の翔大さんが就農しており、すでにほとんどの栽培管理を任せています。今回の品評会の受賞にも大きく貢献しました。藪押さんは翔大さんに対して、自身がそうだったように、親に頼るのではなく、地域の若手生産者と技術や経営力を高め、今の時代に合致する茶生産を目指してほしいと考えています。「これからの『てん茶』経営は、供給過多により価格が低迷する中で更なる差別化が必要になるなど、厳しい時代が待っていると思う。息子が自らの力で逆境を乗り越えていけるように、その土台づくりをしていくことが、自分の役割。」と話してくれました。



翔大さんに管理を任せられた茶園

執筆：農業経営課

取材協力：豊田加茂農林水産事務所農業改良普及課